

1 取組の背景・目的

平取町長、平取アイヌ協会長、北海道森林管理局長の三者協定である「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画ーコタンコロカムイの森づくり推進のための協定書ー」に基づき、平取町亜別国有林において、(株)平取町アイヌ文化振興公社(以下「振興公社」と)と当署が協働・連携し、アイヌ文化における伝統的利用植物の再生に向けた試験植栽や植生調査等に取り組んできました。

このうち草本類についての基礎的な植生調査を令和4年度に開始しましたが、全体的に利用可能な草本類の量が少ないことが、再生上の課題となっています。原因はエゾシカ(以下「シカ」)の食害とと考えてきましたが、実際のシカの出現状況、植物種別の嗜好性、その他の要因等についての調査は未実施です。

本発表では、同国有林内に設置した動物侵入防止柵(以下「柵」)の内外での草本植物の自生状況の相違、柵外の食害状況、周辺におけるシカをはじめとする野生動物の出現状況等について報告します。

2 調査方法

(1) 柵内外での草本植物の自生状況の相違について

柵内外で植生の相違等を調べるため、柵内0.2haの区域に8か所、柵外の区域に7か所、1m×1mのプロットを計15か所設置しました(図1)。それぞれの区域において6月から9月の4か月間に月1回の植生調査を実施しました。



図1. 植生調査・センサーカメラ位置図

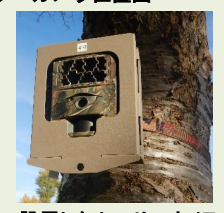
(2) プロット周辺における野生動物の出現状況

プロット周辺の野生動物の出没状況を調べるため、柵外の4箇所にセンサーカメラを設置しました。

7月から9月の3か月間、動物種ごとの撮影回数や移動ルートに着目しながら草本類の食害状況について調査しました。



植生調査 (R5年6月)



設置したセンサーカメラ

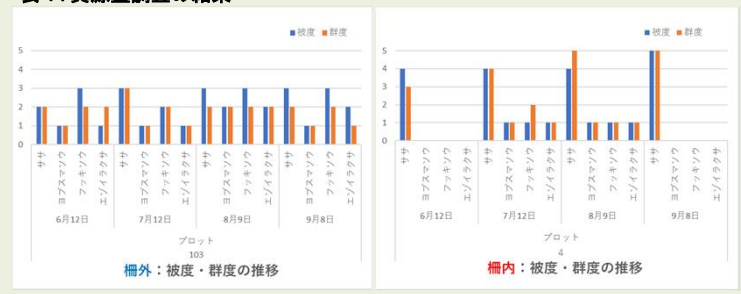
3 結果と考察

(1) 植生調査について(表1)

柵内では、8箇所中7箇所のプロットにおいて、ササの被度が非常に高い結果となりました。ヨモギ等のシカが嗜好する草本が保護される一方で、ササやフキといった一部の草本による被覆が促進され、カタクリをはじめとした多様な植生の生育が妨げられていると考えられます。

一方、柵外では多様な草本が確認され、種数が柵内より多くそれぞれの被度・群度も高い値となりました。ササが少ないことで被圧に弱い草本も多く生育したと考えられ、要因の1つにシカによる食圧が挙げられます(以下(2)を参照)。

表1. 資源量調査の結果



(2) センサーカメラの撮影状況について(表2、図2)

シカによる草本類の摂食状況が確認でき、7月にはササやシダ類を食べる様子が頻りに撮影されました。一方で、フッキソウを食べる様子は確認できず、草本類ごとに、シカの嗜好性の相違が見られました。

表2. センサーカメラ調査の結果
※令和5年度7月～9月

	7月	8月	9月	計
撮影回数	7	2	4	13
カメラ① 内訳	シカ: 7	シカ: 1	シカ: 3	
		アカゲラ: 1	タヌキ: 1	
撮影回数	26	0	86	112
カメラ② 内訳	シカ: 19	シカ: 68	シカ: 68	
	タヌキ: 4	タヌキ: 12	タヌキ: 12	
	テン: 2	アライグマ: 5	アライグマ: 5	
	鳥類: 1	テン: 1	テン: 1	
撮影回数	34	71	41	146
カメラ③ 内訳	シカ: 23	シカ: 64	シカ: 34	
	タヌキ: 10	タヌキ: 5	タヌキ: 5	
	ヒゲマ: 1	アライグマ: 1	アライグマ: 1	
撮影回数	25	35	16	76
カメラ④ 内訳	シカ: 25	シカ: 35	タヌキ: 8	
			シカ: 7	
			テン: 1	



図2. 野生動物が撮影された箇所



ササを食べるシカ

今後の方針と展望

本調査結果から、柵内の草本類の生育に、ササ・フキ等の被圧が影響している可能性があることが解りました。この仮定が正しい場合には、柵内で保護する種の選定と必要に応じた環境整備(草刈り等)が、草本類の安定した育成に寄与するのではないかと考えられます。

今後は、4月頃から植生調査とセンサーカメラによる撮影を実施し、データが不足している春植物の生育と食害の状況、ササ等による被圧が及ぼす影響等を明らかにしていくなど、データの蓄積と充実化を図っていききたいと思います。

当署では振興公社と協働・連携し、これからも「コタンコロカムイの森づくり」に取り組んでまいります